

「希望 (のぞみ)」の学習を通して、様々な人々とともに、積極的に、粘り強く課題解決に取り組む中で、社会において有為な人となるべく自己の向上をはかる子どもの育成を目指します！

文部科学省研究開発学校 6 年次を迎えて

平成 29 年 3 月に小学校・中学校の学習指導要領の改訂、ならびに、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の改訂 (改定) が行われました。小学校以上の学校教育では、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力・人間性等、の 3 つの資質・能力を教科横断的に育むことが示され、幼児教育においては、①知識及び技能の基礎、②思考力、判断力、表現力等の基礎、③学びに向かう力、人間性等、の資質・能力を一体的に育むよう努めると示されています。つまり今後は、幼児教育と小学校以上の学校教育で目指される資質・能力が共通なのです。

幼小接続期



「やさしさ」について考えました。やさしさとは、その人ができることやしなればいけないことを「見守ること」、「心で応援すること」、とみんなで考えました。

さらに、幼児教育においては、

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として、①健康な心と体、②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり・生命尊重、⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、⑨言葉による伝え合い、⑩豊かな感性と表現、が示されています。これらの 10 の姿は、幼児期の終わりまでに到達が目指されているのではなく、小学校以上の学校教育においても引き続き育てていくものです。広島県でも、平成 26 年度から、広島版「学びの変革」アクションプランがスタートしました。また、文部科学省の

幼児教育推進事業の指定を受け、平成 29 年 2 月には、「遊び 学び 育つ ひろしまっ子！」推進プランが策定され、今年度からオール広島県で、乳幼児を対象とした教育・保育の質の向上を目指すことになりました。

以上のように、文部科学省や広島県が育成を目指している汎用的資質・能力は、まさに、広島大学附属三原学校園で、平成 24 年度から 5 年間、文部科学省研究開発学校に指定されて開発した「希望 (のぞみ)」で培う資質・能力に他なりません。つまり、本学校園は、国や県がこれから求める教育をすでに先行実施しているのです。その研究成果は高く評価され、他県からの視察者や 12 月の研究会参加者が増大し、2 月に文科省から指導に来られた先生からも「研究開発指定校のなかで

入門期



年少組は、年中児の石けん泡遊びを教えてもらいながら、泡づくりを繰り返しやってみる楽しさを味わっています。

中間期



4 年生は、どうすれば年長のペアさんがダンスを楽しく踊れるか色々考えています。

小中接続期



6年生は、旅行会社の方の助言をもとに、修学旅行での班別自主研修の計画を練り直して、修学旅行へ臨みました。

も、本学校園の研究の質は非常に高い」と好評をいただきました。新学習指導要領が完全実施された数年後には、教科横断的に育む汎用的資質・能力と保育・教科の関連性が課題になるであろうことが予測されますが、本学校園ではすでに、汎用的資質・能力を教科横断的に育成するとともに、相乗作用として保育・教科の学力向上も目指す教育課程と評価方法をすでに完成し、実施しています。

昨年度は、研究開発課題「社会的自立の基礎となる資質・能力及び態度・価値観の体系的な育成のための、幼小中一貫教育の新領域を核とした自己開発型教育の研究開発」の5年次として、①「社会の中で

真に生きて働く力を育成する全教育課程におけるカリキュラム開発」を目指して、①12年間一貫教育を5つの「学年区分」で区切った効果、②教科の本質に根ざした資質・能力の取り組みの効果、③道徳と特別活動を含んだ「希望（のぞみ）」の効果に関して、新たにカリキュラムプロジェクトチーム、評価プロジェクトチームを設置し、研究を進めました。研究開発6年次である平成29年度は、研究開発完成年度として、「希望（のぞみ）」と道徳・特別活動との関連を「見える化」できるプログラムを作成します。これは、新学習指導要領で設定された「特別の教科 道徳」の今後の在り方を牽引する最先端の取組となることは確実です。

「希望（のぞみ）」の研究開発によって、様々な効果が表れてきました。「希望（のぞみ）」の授業で芽生えた「主体的・対話的で深い学び」のスタイルが各教科の授業にも反映されるようになりました。小学生だけでなく中学生の発言も活発になり、授業のなかでじっくりと思考したり、友だちと話し合ったりする場面が随所にみられるようになってきたことは喜ばしいことです。また幼小接続、小中接続の充実によって、異校種を越えた子どもたちの交流だけでなく、異校種間の教員の連携も強化され、学校園全体としての一体感がますます高まってきました。

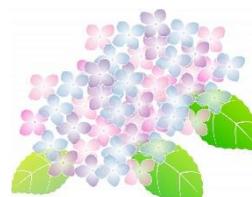
教育と研究に対する本学校園の先生方の熱意には心底感服しています。日々の忙しい仕事に加えて、「希望（のぞみ）」という新領域の非常に難しい研究開発に熱心に取り組まれる姿には心を打たれます。驚くほど加速度的に研究が進んでいるのも、ご指導をいただいているたくさんの大学の先生方からのご助言を先生方が真摯に受け止め、教育研究に反映してくださっているからです。

保護者の皆様には、日々の教育活動に対しまして、いつもご理解、ご協力を賜りまして、本当に感謝しております。今年度もさらなるご支援を賜りますよう、どうぞよろしく願いいたします。

最終期



運動会の「お兄さんお姉さんといっしょ」で園児さんが笑顔でダンスを踊ることができるよう、8年生は教え方の工夫を考えたり、グッズ作りをしたりしています。



広島大学附属三原学校園長 三村真弓

「研究開発だより」（カラー版）をHPに掲載していますので、併せてご覧ください。

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/fmihara/kenkyu/>